HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	國際農業経済学者会議報告 : 矢島教授の報告について
Author(s)	松田, 武雄; MATSUDA, T.
Citation	法經會論叢, 14, 247-247
Issue Date	1955-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/10767
Type	departmental bulletin paper
File Information	14_p247-247.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

「國際農業經濟学者會議」報告

矢島教授よりの報告について

小林教授の記念号に教授の育成された愛弟子の一人矢島教授の海外からの報告第一号を紹介する事は私の光榮とし欣快に堪えない所である。

矢島教授は米国の経済及文化事情委員会農業経済部長ロッシング・バツク博士の推薦により、同委員会の招聘で第九回国際農業経済学者会議に日本代表の一人として出席したのである。此様なケースは絶後であらしめ度くはないが、恐らく我国では最初のものであり我々としては喜びに堪えないのである。矢島教授は此機会に歐洲特に北欧の農業事情を視察し、更に米国に渡つてイサカ大学農業経済研究所を拠点として研究調査を進める予定である。我々は氏の大成に最も多くを期待しているのである。

今回ヘルシンキに於いて開催された第九回国際農業経済学者会議のテーマは、「技術進歩」に関する諸問題であつた。農業以外の分野に於ては技術進歩は比較的短期間に産業構造に於ても生活形態に於ても飛躍的進歩を齎らしたのである。

農業に於ける技術進歩は多くの制約條件のために相対的に著るしく立遅れ、それが生産能率に関しても所得水準に於ても農業と非農業の間に顕著な隔差を生ぜしむるに至つた一つの要因となつているのである。又農業の内部に於ても技術進歩の有無及び技術進歩導入の速度の差によつて能率及所得の隔差が現れるのである。

従つて農業に於ける技術進歩の推進と普及は社会経済の総生産及国民所得を増大せしめ、農業と非農業間並に農業内部に於ける経済的不平等性を縮少せしめるが如き望ましき効果を実現するための一つの要素をなすものである。

農業に於ける技術進歩は農業に於ける生産構造を変改し従つて生産函数を変革せしめる効果あるが故に、收穫逓減法則の作用をその前提に於て止揚する。斯て技術進歩の行われる社会に於てはマルサスやリカードウの予言は――食料の欠乏による社会的飢餓や経済地代の果進的收奪――実現しなかつた許りでなく、寧ろ逆に不況時代に於ては過剰生産に当面したのである。

農業に於ける技術進歩は農民自体の創意工夫に出たものも些くないが、現代の進歩せる科学技術を基盤とする重要な発明発見は主として政府の試驗研究施設の成果なのである。大学試驗場研究所に於ては夫々の専門研究員が各国各地方の最新の科学技術を交流し合つて、個々の農民の及び得ない機能を果しているのである。

農業に於ける技術進歩が国民一般の利益を増進する効果があり、個々の農民の力を以て充分に行い得ないとすれば、政府が之を行う事は当然であると言わなくてはならないが、その事は亦政府の行う努力が眞に農業に於いて技術進歩の実効を挙げて行かなければならないという点を看過してはならないのである。そこに農業の地域性と関連した複雑な問題が存在するのである。

今回の国際会議に於ける所論を通観すると技術進歩を背景とする農業革命の新しい世紀の展開が感ぜられると共に、地域性の問題が脚光を浴びて登場している。我々は我日本をその一環として把握するのであるが、我日本そのものの内部に、更に我々の住む北海道の中に存在する地域性を明確に把握して、最も適正にして実効ある技術進歩の展開を計る可きであろう。

松田武雄